

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 地域福祉課

会 議 の 名 称	平成 30 年度第 2 回茅野市地域福祉審議会		
開 催 日 時	平成 31 年 2 月 12 日 (火) 19 時～21 時		
開 催 場 所	市役所 8 階大ホール		
出 席 者	<p>【委員】 平出会長、竹内副会長、功刀委員、大久保委員、戸川委員、長田委員、松山委員、武井委員、戸田委員、宮下委員、小林委員</p> <p>【事務局】 茅野市長、竹内健康福祉部長、牛山こども部長、柳澤健康づくり推進課長、小穴健康推進係長、平澤高齢者・保険課長、斉藤保健福祉サービスセンター長、五味こども課長、有賀学校教育課長、井出地域福祉課長、竹村福祉総務係長、武居福祉総務係担当、小林福祉総務係主査</p>		
欠 席 者	高木委員、林委員		
公開・非公開の別	公開 ・ 非公開	傍 聴 者 の 数	1 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容 (概要)		
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 諮問</p> <p>5 審議</p> <p>(1) 審議会の公開について 本審議会について公開することに決定。</p> <p>(2) 茅野市「生きる」自殺対策行動計画 (案) について 資料により概要説明</p>		
委員	<p>P34 の目標指標 31.3 の計算方法で、自殺死亡者数 17 人と住民基本台帳人口 54,268 人は 5 年間の累計か。</p>		
事務局	<p>2012 年から 2016 年までの累計の数値で計算している。</p>		
委員	<p>54,268 人は 70 歳以上の数値か。</p>		

事務局	2012年から2016年までの年ごとの数値を足した合計になる。
委員	P39 目標指標の死亡者数、住民基本台帳人口の数値も5年間の累計か。
事務局	5年間の累計になる。
委員	茅野市の5年間の自殺者数の合計が55人で、70歳以上と10代から30代までの自殺者数が同じなのに計算結果が、31.3と19になるのはなぜか。
事務局	分母の人数が違うため計算結果が変わってくる。2017年の70歳以上の住民基本台帳人口が、11,564人で約5倍すれば5年の累計に近い数値になる。
委員	備考欄にある国の数値は16.8で良いか。
事務局	良い。また計算は、全国、他市と比較するために10万人単位で計算している。
委員	ゲートキーパーは馴染みがないため、説明や活動の内容を入れ、何をする人か。逆に心が病んでいる人が見たりすることで相談してみようとなり、自殺を減らすことができるのではないか。要望になるがリーフレットになるような、ダイジェスト版を作っていただきたい。また、P33のいきいき健幸ルームの「健幸」の字はこれで良いのか。
事務局	「健幸」の字はこれで良い。ダイジェスト版の予算はないため、既存の自殺対策のパンフレットを使い周知していきたい。
委員	P20のゲートキーパーは自治体職員、保護司、民生、市民向け、教職員など幅広い人、誰が何をするのか。また学習会の開催目標が5回になっているが、たくさんの人を集めるのか。各学校や団体等に頻回に出向くことではないのか。
事務局	市職員、保護司会、保健指導員、ケアマネジャーなど複合的に大勢の人に来てもらい研修を開催し、徐々に増やしていきたい。
委員	P30にSOSの出し方に関する教育は具体的に何を想定しているのか。また3年の間に各学校のすることを具体的に入れなければすぐに計画年が終わってしまうのではないのか。

事務局	学校教育の活動に位置づけ、学校以外の信頼できる大人としてスクールカウンセラーが授業で行うことを実施する予定。具体的には長野県が作った冊子を使い、講義を行う。
委員	P37の性的自認とは何か。
事務局	性的マイノリティの部分に書いてある。
委員	日本語でこの言葉があるのか。
事務局	国から示された用語を使用している。
委員	言葉に米印などを入れ、説明を入れてほしい。
事務局	言葉を修正するかコメントで説明を入れる。
委員	P33のいきいき健幸ルームの健幸は、一般の人が見ると字を間違えていると思うので、説明を入れてほしい。
事務局	欄外に注記を入れる。
委員	P7のPDCAを茅野市で回せるのか。また取組の中に人を増員する項目もあるが、予算措置がされているのか。この計画が実行できるのか思いを聞きたい。
事務局	計画を立てたがこの4年間にいつ実行するのか決まっていない。各担当課で予算を取り、事業を進めていく。
委員	P13の課題4の自殺者への適切な支援とは何か。
事務局	P27からの自殺未遂者への支援を総動員していく。
委員	P29目標指標の目標値は3回だが、備考にある、進行管理のため1回とは何か。
事務局	2022年度は次年度の計画策定があるため、3回開催し、2019年度から2021年度までは進行管理のため、各年度に1回開催する。必要があれば目標値以上に開催する。

委員	目標が年に1回の開催ということか。
事務局	2022年度は3回開催する。2019年度から2021年度までは1年間に各1回開催する。
委員	P7のPDCAは、年1回、回していくのか。
事務局	統計が毎年更新されている。それを踏まえて、来年度の進捗管理を、現状を踏まえながら把握していく。
委員	4年間でどのくらい改善していこうかとなるが、年1回PDCAを回した結果、次年度は何をするのかの結果をどこかに報告するのか。内部だけか。またこの審議会に提示するのか。
事務局	庁内の活動は、庁内の連携会議で進捗状況を諮る。市内の団体が集まる茅野市自殺対策連絡協議会は、P29の(1)に書いてあるが自殺の事例検討を行い、対策を考えていく仕組みづくりを行う。事務事業評価、計画の目標指標を毎年、把握していく。アンケートは5年に1回行い、それぞれの事業は、毎年、経過を把握していく。
委員	P8の市民アンケート調査とパブリックコメントは、どう使い分けていくのか。パブリックコメントは、活発に行われているという結果が見えない、アンケート調査とパブリックコメントが被る部分もあると思うが、どう力を入れていくのか。
事務局	市民アンケート調査は、P14から結果を掲載している。計画を立てるのに市民の方がどう思っているかアンケートを取ったが、あながち市民の方が知らないという結果ではなかった。P16(5)の自由記載は、庁内の連携会議で項目を網羅しているかチェックし棚卸している。市民アンケート調査は計画を立てる前に実施し、パブリックコメントは、11月26日から12月25日までホームページ、広報で行い、結果をホームページで公表している。1人1件意見をいただいた。
委員	P30の相談員、スクールカウンセラーを増員について、SOSをシビアに受け取ってもらえないという事例がある。増員することで対応を作られているという見方で良いか。
事務局	この活動は今まで取り組んできた内容になる。各中学校区に相談員等を配置し、スクールカウンセラーは県費で配置している。市費をプラスし増員している。お金がかかる相談員だけでなく、学校の中では教員が相談

	<p>員を兼ねている。また相談室があり、保健の先生、生徒指導の先生、校長先生が相談にあっている。予算のかかることや特別教育の支援員など役割分担を見直していく。SOSをつなぐときに学校以外の信頼できる大人につなげることが重要。学校の相談員に声を上げることも大事だが、その他に育ちあい茅野、警察、児童相談所、県の機関につなげていく。SOSの出し方に対する教育は、学校だけではなく他にも沢山あるということ子どもたちに知ってもらい、活用していただくことを考えている。</p>
委員	<p>P30のSOSの出し方に関する教育で、SOSミニレターを市内の小中学校の保健室前に設置している。先生に言えない、親に言えないことが法務局に直接届き、相談員が対応していく制度がある。何年も行われているので、ここへ付け加えることはできるか。学校も気が付かない先生がいる。校長先生も知らない学校もあるので、誰にも知られずに相談できるということを周知するためにも入れてほしい。</p>
事務局	<p>修正は、可能だが、詳細を確認したい。</p>
委員	<p>自殺は交通事故を減らすのと違う。身近にいないと想像がつかない。厳しい意見になるが、できることは網羅しているが、これで減るかは予測できないし、疑問。子どものSOSは書いてあるが、他のSOSの出し方、受け取り方がない。予兆があれば対応できるが、周りに言っていたなどなければ、対策の取りようがない。何らかの形で予兆を、SOSを出せるか。そういう環境にあるか。追い込まれる人は孤立してSOSを出さない、出せない。子どもはこの仕組みでもいいが、妊婦、高齢者、生活困窮者の福祉に係る人は感ずることができるかもしれない。その他の人、勤労者など他のSOSのつかみ方を模索してほしい。</p>
委員	<p>自殺する人は表に出ない、それを見守りしろと言われてもどうしていいか悩むことになる。17人の高齢者の自殺は、あったからわかった。予防策をしていなかったと思うが、どう手を差し伸べるかが見えないし、わからない。引きこもりや家族で何とかしようという人に、配っても見てもらえるかわからないが、目につくものを配布する。概要版も古いので、現在の新しい物を作れないか。市の計画は、横文字が多いので注釈を入れてほしい。</p>
事務局	<p>横文字に注釈を入れる。配布は現在あるパンフレットを配りたい。ゲートキーパーの役割も書いてある。</p>
委員	<p>いつ作ったのか。</p>

事務局	<p>大分前。内容は変わらないので新しく作らず、このパンフレットを使う。ゲートキーパーの学習会を開催していくので、気づくこと、言動がおかしい、恰好が違う、眠れていないなど気づくことがある。気づいて見守るゲートキーパーの役割を認識してもらうことから始めていきたい。</p>
委員	<p>P18 メディアの活動の中で、長野県は全国に先駆けSNSの活用をしている。SNSは若い世代が使っている。自殺になる前のいじめなど自殺を助ける方法になる。県の事業につなげるのか、市として事業をするのか。</p>
事務局	<p>市ではこの体制が取れない。県で行っているSNSを活用した相談事業につなげていくことを考えている。</p>
委員	<p>自殺に至る前の発見をたとえば民生児童委員、社会福祉協議会がリンクして市が自殺の兆候のある人を発見するシステムをとれないか。</p>
事務局	<p>声を上げたり、気づいたりしたときにどこにつなげるか、民生児童委員、事業所、郵便局の方など自殺に対する変化に気づいたときにどこにつなげるのか。身近なところで市の相談窓口として、地区コミュニティセンター、保健福祉サービスセンターにつなげてもらえば、職員が行くのがいいのか、専門の機関につなげるのがいいのか、話を聞きに行くのかなどの判断を仰ぐことができる。茅野市の場合、育ちあいちのを含めいくつもの拠点がある。まずは相談していただき、市の職員が対応し、庁内連携して対応していく。一番知っている、行きやすい所に相談していただくことから始めてほしい。</p>
委員	<p>民生委員の活動で、一番のポイントは、気づくことにある。気づくことの教育を受け、ゲートキーパーの教育に入らないとただ、やりましたで終わってしまう。</p> <p>回っていてちょっとおかしいからと市へすぐにつなげるわけにいかない。話を聞くことで、教育委員会、地域福祉課がいいのかを捉えて適切な所へつなぐ、ゲートキーパーの学習も理論を持って進めていかないと役に立たない。何回か継続して学習することで、自殺の相談員を増やしていくことがスタート。引きこもりが自殺の第1歩になるので、そういったことを踏まえて、ゲートキーパーの学習の中身を作っていただきたい。</p>
事務局	<p>講師の先生と相談しながらやっていきたい。</p>
委員	<p>P54、55 諏訪中央病院の取組は、ちの地区医師会も講習に参加したりしているので、連名が現実的でいい。茅野高等学校の教職員の自殺予防の</p>

	<p>研修は、教師が自殺しないようにか、生徒なのか、また東海大学付属諏訪高校は細かく書いてあり、バランスが良くないと思うが、確認したほうがいい。</p>
事務局	<p>医師会を入れる。茅野高等学校は確認して修正をする。</p>
委員	<p>P 7 の市民の文章にたいへん、ごしたいがつかくならないようにとあるが、ごしたいの方言をあえて使っているのか。</p>
事務局	<p>市長が言った言葉になる。茅野市の色を織り交ぜている。疲れたの言葉に修正するのか、注釈を入れる。</p>
委員	<p>茅野市の人わかるが、都会から来た人は、ごしたいと聞いてわからなかったという話も聞くのでどうかと思った。修正等は事務局にお任せする。</p> <p>P 18 に初めて出てきたゲートキーパーの言葉を、どういう意味かと思い、調べたら、次のページに説明が書いてあった。できれば、初めて言葉が出る下に説明を入れてもらえばわかりやすい。</p> <p>P 13 の課題 4、自殺未遂者への適切な支援は、例えば P 27 参照とか付け加えてもらおうとそのページも見られるので入れてほしい。</p>
事務局	<p>参照ページについては、全てに入れたいといけないので、ここだけ入れるのかどうか事務局で検討をしたいがよろしいか。</p>
委員	<p>主なところに入れてほしい。</p>
事務局	<p>ゲートキーパーの意味について、基本施策 2 の人材育成の強化にゲートキーパーの言葉が主に出てくるため、近いページに書いている。</p>
委員	<p>最初に出てきた所に入れればわかりやすい。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員	<p>米印 1、2 と言葉に入れておけばどこかに書いてあると見るのでわかりやすくなる。</p>
事務局	<p>検討する。</p>
委員	<p>P 57 に茅野市自殺対策連絡協議会の名簿があるが、お寺の住職は含まれていないが、住職は、人の道を説くような話をされるお寺さんもある。</p>

事務局	<p>心の病は、宗教的な家庭教育を今はしていない。昔はお仏壇に先祖をお参りして、お水を上げたりして子どもが育った。子どもに役割を1つ与え、例えば新聞を取りに行くなど、与えられた子どもは自分がやらなければならないと思うことが大事。自分が何もしなくてもいい、居なくてもいいと思うと自殺に追い込まれるようなケースもあると思うので、協議会のメンバーに必要ではと思う。</p> <p>国のマニュアルに従い、協議会を作った。任期が2年のため、今後の検討課題としたい。</p>
委員	<p>仏教だけではなくキリスト教もある。寺や教会に実践に入ってもらい、積極的に関わってもらうことはいいので、力をお借りしたほうがいいと思う。</p> <p>ごしたいの部分の文章が、たいへんは標準語、ごしたいは方言、つらくならないようには方言ではないので、全部方言にして、注釈を付ければ強調されるのでいいと思う。</p> <p>子どものSOSの出し方よりも、生きる力をつける教育が重要、SOSはマイナスの考え方になる。プラスになることを学校の対策としてほしい。スクールカウンセラーに行くことがマイナス、行かなくても済むようにする教育の仕方があると思う。実践している学校もあるので、生きる力を基本にして、起きないように自分で解決できる力をつける教育が理想になる。研究していただき、これから大人になる子どもを力強く支援していければと思う。</p> <p>実践団体で諏訪地区保護司会と更生保護女性会は、一緒に活動しているので、団体名を載せてほしい。P39の薬物乱用防止活動に、一番力を入れているのが、更生保護女性会と茅野ライオンズクラブになるので、団体名を載せてほしい。</p>
事務局	<p>団体名は追記する。SOSの教育は、国からしなさいと言われている。SOSの出し方を間違え、インターネット上で助けを求めたために連続殺人事件に巻き込まれた事件もあるので、正しいSOSの出し方をしなさいということを踏まえて、計画に入れている。</p>
事務局	<p>子どもたちが成長していくのに、どうやって自殺を減らすか考えていくと、自己肯定感をどう養っていくのが大事。茅野市の教育目標は、生きる力を育むこと。どんぐりプランではどうやって生きる力を育むか、また、道徳、生活生徒指導、いじめ撲滅、不登校対応にどうやって取り組んでいくのかをよつばのクローバープランとして、どんぐりプランに記載している。茅野市らしさをより積極的に前面に出すのか健康づくり推進課と協議し、検討したい。</p>

事務局

茅野市パートナーシップのまちづくり基本条例にもごしたいの言葉が書かれ、注釈が書かれている。その言葉を注釈として書きたい。

諮問については、了承し、審議の中で出された意見を尊重し、十分に検討いただき、必要に応じた修正を行うことで答申することに決定。

6 答申

(会長から市長へ答申)

7 閉会